

# 笠松町 地震ハザードマップ

## KASAMATSU TOWN Earthquake Hazard Map

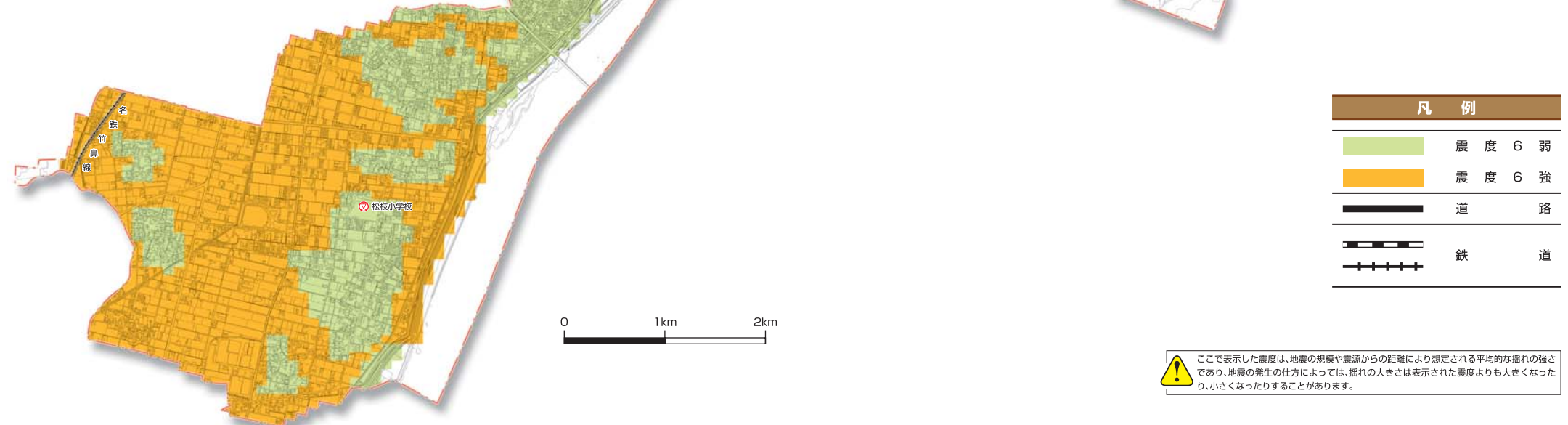
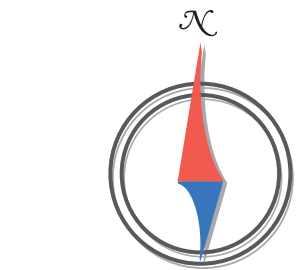
# 揺れやすさマップ

1/15,000

笠松町では、今後町内で発生する可能性がある地震について、住民のみなさんに関心と知識を持っていただき、日頃からの備えをしていただくことを目的に「地震ハザードマップ」を作成しました。

自宅等の想定される揺れの大きさを確認し、日頃から地震に備え家財などの転倒防止や、地震が発生した時の対応などを家族や周辺のみなさんと相談しておきましょう。

ハザードマップに関するお問い合わせ先  
 建設課 〒501-6181 岐阜県羽島郡笠松町可町1番地  
 TEL: 058-388-1117 FAX: 058-387-5816



凡 例	
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#90EE90;"></span>	震度 6 弱
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#FFA500;"></span>	震度 6 強
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border-bottom:2px solid black;"></span>	道 路
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border-bottom:2px dashed black;"></span>	鉄 道

ここで表示した震度は、地震の規模や震源からの距離により想定される平均的な揺れの強さであり、地震の発生仕方によっては、揺れの大きさは表示された震度よりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

## 揺れやすさマップとは

「揺れやすさマップ」とは、地形や地盤の状況をモデル化し、想定される震源との位置関係とあわせて地点ごとの震度を計算して、その結果を表示したものです。

震度の計算は、地域を50m四方の「メッシュ」に区割りして、地形分類、標高、代表ボーリングデータなどの情報を基に、表層地盤の揺れやすさを求め、基礎に伝わってきた地震波が地表面に達するまでの増幅の強弱を評価することで地表面の揺れの強さを求めています。なお、笠松町の地層は本曾川のはん濠原からなる軟弱な沖積層から構成されているので、地質分類を大きく東部、中部、南部の3ブロックに区分しています。

ご自宅の周辺が、どの程度の揺れに見舞われるのかの目安となりますので、確認してください。

## 震度と状況の関係

5弱	<p>多くの人が、身の安全を固ろうとする。棚に入った食器や本などが落ちることがある。家具が動くことがある。耐震性の低い木造住宅では、壁や柱が破損するものがある。</p>
5強	<p>多くの人が行動に支障を感じる。タンスなどの家具が倒れることがある。変形でドアが開かなくなったり、戸が外れることがある。耐震性の低い木造住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。</p>
6弱	<p>立っていることが困難になる。重い家具の多くが移動したり倒れたりする。家屋の変形でドアが開かなくなることが多い。耐震性の低い木造住宅では、傾くものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。</p>
6強	<p>立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動・転倒する。耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。</p>

## 想定した地震の震源

笠松町の位置する濃尾平野近海では、大陸プレートと海洋プレートが衝突し、海洋プレートが沈み込んでいるため、南海トラフと呼ばれる非常に活発で大規模な活断層があり、マグニチュード8クラスの巨大な地震が約100年ごとに発生し、その危険性が高まっています。また、県内では活断層などどこでも起こりうる内陸直下型地震も考えられています。

揺れやすさマップの作成にあたっては、「東海・東南海複合地震(マグニチュード8.3)」と「関ヶ原・養老断層系地震(マグニチュード7.3)」および「どこでも起こりうる地震(マグニチュード6.9)」の3つのタイプの地震を想定し、それぞれの地震が起きた場合の揺れの大きさ(震度)を推定し、その最大となる震度で表示しました。

## 岐阜県内の主な被害地震と震源地

岐阜県では、明治以降、国内最大級の内陸型地震である濃尾地震(明治24年、県内死者約5,000人)や、昭和の東南海地震(昭和19年)、南海地震(昭和21年)などの海溝型地震による被災を受けてきましたが、岐阜県中部地震(昭和44年)以降、被災を受けるような強い揺れを経験していません。

しかし県内には、内陸型地震の引き金となる活断層が数多く存在しているほか、四国から東海にかけての海溝沿いで、ほぼ100~150年間隔で繰り返し大規模な地震を引き起こす、東海地震や東南海地震の発生確率が高まっています。

## 岐阜県の地震と被害の概要

日本 歴	地震名(震源地)	マグニチュード	主な震源地	被害概要(県内)
明治24.10.28	濃尾地震(本巣市根尾)	8.0	美濃・尾張	美濃で死者4,990人 負傷者12,783人、全壊50,125戸
明治42.8.14	姉川地震(滋賀県姉川流域)	6.8	滋賀・岐阜	岐阜市西部で死者6人 全壊51戸
昭和19.12.7	昭和の東南海地震(熊野沖)	7.9	静岡・愛知・三重・岐阜	西南濃地方を中心に死者13人 全壊900戸
昭和21.12.21	昭和の南海地震(潮岬沖)	8.0	中部以西各地	西南濃地方を中心に死者14人 全壊586戸
昭和36.8.19	北美濃地震(岐阜県北部)	7.0	岐阜・福井・石川	石徹白地方の被害が最も大きく 山崩れ、崖崩れ 道路損壊有り、死者2人
昭和44.9.9	岐阜県中部地震(岐阜県中部)	6.6	岐阜県中部	郡上部、益田郡で 山崩れ、崖崩れ多発、死者1人

## 東海・東南海複合地震とは

東海地震と東南海地震は、これまでの地震の発生履歴から同じ時期、または近い時期に連動して発生することが予測されています。東海地震と東南海地震が連動して発生した場合を指して「東海・東南海複合地震」と呼んでいます。

地震の発生の仕組み  
 海洋(フィリピン海)プレートが陸域(ユーラシア)プレートの下にもぐり込むときに陸側のプレートの先端を引きずり込んでいきます。ある限界になると引きずり込まれた先端が元に戻ろうと跳ねて、地震が発生します(プレート境界地震)。もぐり込んだプレートの上面でもひずみが蓄積して、岩石が耐えられなくなったときプレート自体に破壊が生じ地震が発生します(プレート上面の地震)。

## 関ヶ原・養老断層系地震とは

関ヶ原・養老断層による地震は、濃尾平野西部に位置する養老山地の東縁に発達する活断層帯(関ヶ原断層および養老断層)により発生する内陸部の地震です。

地震の発生の仕組み  
 陸域のプレートの比較的浅いところでひずみが蓄積してゆき断層が動くことによる地震が発生します(陸域の浅い地震)。この際、震源断層が地表に現れない地震もあります(全国どこでも起こりうる地震)。

## どこでも起こりうる地震とは

全国どこでも、最大でマグニチュード6.9程度の地震が起こり得るものと考えられています。この地震が起きた場合、震源が浅くて近いために強い揺れがともないます。想定震度は地盤の揺れやすさによって決まります。震源としては全ての場所の直下(笠松町の地下4km付近)を断層の上端としたところの位置でも起こりうる地震を想定しています。

## 揺れやすさマップ作成の流れ

